

平成29年度自己評価表(最終評価)

鳥取県立日野高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る	今年度の重点目標	1【主体的な学びの推進】課題を認識し、解決の方策を考え、行動する力を育成する 2【社会性の育成】人と関わる力、自分の感情・行動をコントロールする力を育成する 3【地域資源の活用】地域に貢献する力を育成する

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具 体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学びの質 的改善	学びに向 かう意欲・ 意識の醸 成	○10箇条の「学びのルール」を定めているが、教職員、生徒への定着、指導への活用は不十分。 ○授業放棄又は授業妨害で指導カードを受けた生徒が平成28年度に延べ42名。 ○生徒の家庭学習の実態を把握していない。 ○「進路指導(ガイダンス、模試等)」に満足していますか」という質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合が61.4%。 ○授業のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒に授業の見通しを持たせるよう努めている。 ○タブレットを活用した授業を実施できる教員が27.8%。	○「学びのルール」が生徒に定着している。 ⇒「学びのルール」を覚えている生徒が80%以上。 ⇒授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ35人以下。(平成31年度)は20名以下) ○生徒の家庭学習実態を把握し、学習指導の改善に活かしている。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が65%以上。(平成31年度)は80%) ○自らの授業への取り組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が60%以上。(平成31年度)は75%) ○タブレットを活用した授業を実施している教員が33%以上。(平成31年度)は50%以上)	○学期初め及び考査終了後の時期に「学びのルール」を唱和する。 ○年6回の一般常識小テストに「学びのルール」に関する問題を出題する。 ○指導カードに関する教員研修を年2回実施し、適正に運用する。 ○学習時間調査を年2回実施し、具体的な学習指導を面談等において実施する。 ○適性検査や基礎学力診断テストの結果を効果的に生徒にフィードバックする。 ○進路科目選択調整会で組織的に個々の生徒の進路について検討し指導に活かす。 ○生徒の進路希望に合わせ、各種模試の受験を個別に呼びかける。 ○「学習の手順」マグネットを各教室のホワイトボードに貼り、授業の内容と目標を示し易い環境を整備する。 ○協同学習の授業研究会においても、効果的なタブレット端末等の活用を研究する。	○一般常識小テストにおいて、毎回「学びのルール」から問題を出題している。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒は延べ29名であった。 ○6月と9月に家庭学習時間調査を実施し家庭学習状況を把握した。担任面談での活用を図ったが、活用効果が期待できる分析までできていない。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をした生徒は64%であった。 ○進路・科目選択調整会で生徒個々の進路を検討し、担任とキャリア形成部とが情報を共有して、面接週間・保護者懇談等で助言等を行った。 ○1月末現在、進学模試受験者数は、延べ33人(H28同期延べ22人)。 ○「授業中、話をよく聞き、しっかり考えている」と肯定的な回答をした生徒は70%であった。 ○タブレットを活用した授業を行った教員は33%であった。	B	○「学びのルール」を活用した指導を継続して行う。定着の把握を行うため学校評価アンケートに質問項目を追加し、今後の指導に活用する。 ○年度当初に教職員にカード指導の徹底を図り、より適切なカード指導の運用を行う。 ○授業の工夫や課題の出題など、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路HR、面接週間、保護者懇談等において、教育企画部とキャリア形成部が連携して、生徒の進路意識と学力の向上に資する情報提供、指導・助言を行う。 ○インターネット環境の整備を行うとともに、タブレット端末を活用した授業指導を研究する。
	協同学習 の実践(挑 戦)	○「授業が分かりやすく工夫されていると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合が63.7%。 ○公開授業週間を年1回実施して、教員の授業改善の意識向上に努めている。 ○「産業社会と人間」や「課題研究」の授業で学校魅力向上コーディネーターと連携して、多様な学びを実践している。	○授業の質的改善に取り組んでいると回答する教員が65%以上。(平成31年度)は100%) ○本校の授業内容、学習方法に対して肯定的な回答をする生徒が60%以上。(平成31年度)は75%) ○公開授業週間の参観シートの利用枚数が延べ50枚以上。 ○校内授業研究会が活性化している。 ○「産業社会と人間」や「課題研究」の授業において、生徒が協同して学ぶことができるようになる。	○授業公開週間に合わせて協同学習に関する研修会・授業研究会を実施し、教員間の協同学習の視点の共有化と授業改善に係る意欲の向上を図るとともに、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業の質的改善に取り組む。 ○授業公開週間を年2回以上実施し、参観シートを活用して自分の授業の改善に役立てる。 ○「産業社会と人間」や「課題研究」の授業で学校魅力向上コーディネーターと連携し、意図的に協同的な学習の場を設定する。	○1・2学期の授業公開週間に協同学習に関する授業研究会を実施したことで、71%の教員が「授業の質的改善に取り組んでいる」と回答した。 ○授業内容、授業の進め方に満足している生徒の割合はそれぞれ、64%、63%であった。 ○公開授業週間での参観シートの利用枚数は延べ13枚にとどまった。 ○「課題研究」はグループで研究を進め、「産業社会と人間」でも協同的な学びの場面を多く用意し、コーディネーターとの連携を図り地域資源を活用した学びに取り組んだ。	B	○協同学習の推進(H30:試行錯誤期)に向け注力する授業科目の決定と具体的な仕組みを導入する。 ○授業公開週間の活性化の方策を考案する。 ○電子黒板、デジタル教科書及びタブレットを活用した授業の研修会を開催する。 ○協同学習に関する授業研究会が活性化する仕掛けを工夫する。 ○参観シートを配布する等、活用の促進に向けた方策を考案する。 ○「産業社会と人間」等における教育活動の定期的・客観的な評価の実施方法・内容について研究する。
2 社会の中 で生き抜く 力の育成	人と関わる 力の伸長	○コミュニケーション力や他者と協同・協調する力が不足している。 ○服装、言葉遣い、授業中の態度は概ね良好であるが、一部に粗暴な言動や授業中の私語等を行う生徒がいる。 ○他者を傷つける行為、いじめ、SNSへの書き込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒が平成28年度に18人 ○障がいのある生徒が複数名在籍しており、個別の支援・指導等の対応が必要。	○学校生活や授業を通して、コミュニケーションを図り、人と協同・協調することができるようになる。 ○他者を傷つける、いじめ、SNSへの書き込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒が13人以下。(平成31年度)は15人以下) ⇒1年次生においては、人間力アップ合宿後の対人関係での指導件数が2件以下。 ○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が60%以上。(平成31年度)は80%以上)	○あらゆる教育活動の場面で効果的に他者と協同・協調する場面を設ける。 ○特別活動の時間を活用し、グループワークトレーニング・ソーシャルスキルトレーニングを実施する。 ○いじめは絶対に許さないという指導を粘り強く行うとともに、いじめアンケートや生徒の普段の様子を把握し、組織的かつ迅速な対応を行う。 ○1年次生を対象に、人間力アップ合宿を実施して人間力の向上を図る。 ○WYSH教育の充実を図る。 ○自己理解・他者理解についての講演会等を実施する。	○1年次生では、4月にグループワークトレーニング・ソーシャルスキルトレーニングを実施したことで、様々な教育活動の中で他者と協力的な関わりをもつ姿がみられる。 ○1年次生は8月に人間力アップ合宿を実施し、生徒の86%が「人間力アップにつながったと思う」との感想を持った。 ○他者を傷つける、いじめ等の行為により指導を受けた生徒は、延べ15人であった。1年次生の合宿後の対人関係における指導件数は1件であった。 ○「相手の気持ちを大切にすることができるか」「人との出会いを通して成長を感じているか」との質問に対して、肯定的回答は68%、76%であった。	B	○授業や特別活動を通して生徒同士が協同・協調する場面を多く設定する。 ○各学期の始業式・終業式後に全校集会・学年集会を開催し、学校生活の諸課題に対する意識の高揚を図る。 ○生徒の状況に合ったWYSH教育の内容を検討する。
	感情・行動 をコントロ ールする 力の増大	○自尊感情や自己有用感が低い生徒が多い。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が平成28年度に12人。 ○個々の生徒の特性、課題を把握し、ケース会議等の開催や、教育相談員やSSW等と連携することで、個に応じた支援を行っている。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をする生徒が30%以上。(平成31年度)は60%) ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が10件以下。(平成31年度)は15件以下) ○生徒が場外に就いて感情や行動を自制でき、安心して学校生活を送っている。 ○生徒の学校満足度が75%以上。(平成31年度)は95%以上)	○主体的な行動が求められるよう、生徒会執行部を中心に生徒が生徒に活動のねらい等を働きかける機会を増やす。 ○WYSH教育の充実を図る。 ○報道等へ学校情報を積極的に発信する。 ○全教職員が指導方針を統一した上で、一人ひとりを大切にしたい指導を行う。 ○ストレスマネジメントや食育講演会、保健だより等をとおして、生徒に心の豊かさを学ぶように指導する。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート質問に肯定的な回答をした生徒は約32%であった。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数は3件であった。 ○生徒の学校満足度に関する肯定的な回答は約71%であった。 ○教育活動の報道提供を24件行った。 ○ストレスマネジメントを3年次生は8月、1・2年次生は11月に実施し、食育講演会を11月に実施し、心の豊かさを学ぶきっかけとなった。 ○「食事」についてのアンケートを実施し、結果を学校だより「日野川」に掲載して啓発を行った。	C	○全体的に落ち着いた生活を行えるようになってきている。今後も個々の生徒の様子を見守り、一人ひとりに適切な指導を行う。 ○生徒会執行部や学校祭実行委員会において生徒が主体的に運営するように指導する。 ○生徒の状況に合ったWYSH教育の内容を検討する。 ○生徒の地域貢献活動を積極的に報道提供し、生徒の自尊感情や達成感を醸成する。
3 地域と連 携した教 育の推進	地域に貢 献する意 欲の醸成	○地域の人材・資源を活用した授業や部活動で地域貢献事業、町内清掃ボランティア活動等を行い、地域貢献活動の充実を図っている。	○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができようことを考えるようになる。 ○生徒が部活動、生徒会活動、学校行事等で、地域貢献を発案できるようになる。 ○校内および地域環境への意識が高まっている。	○「産業社会と人間」や「課題研究」において、地域との関わりを充実・発展させる。 ○「職場体験」を日野郡内の事業所を中心として実施し、地域の産業等を知る。 ○日野郡内の小学校・中学校と合同で町内清掃活動を実施し、地域に貢献する意識を高める。 ○各種学校独自事業を充実したものとし、地域と学校とが双方向的な利益を獲得する。	○「産業社会と人間」や「課題研究」において、地域との関わりを充実・発展させたこともあり、「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒は69%であった。 ○「職場体験実習」を実施した26事業所の内、日野郡内では22事業所(85%)で実施することができた。(H28:25/37事業所(68%)) ○今年度初めて9月に小中高合同で町内清掃活動を実施した。 ○5月、9月に球技大会に併せて、ごみ出さず1Dayを2回実施した。 ○福祉餅つきを行い、生徒が考案したメッセージカードを添えて餅を配布した。	A	○様々な教育活動で生徒が自発的に地域貢献できる仕掛けを企画・立案する。 ○小中高合同の清掃活動の実施については、実施方法等の協議を小・中・高で密に行い、効果的な交流の仕掛けを含む清掃活動を計画する。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]